
板橋仲町どろんこ保育園

平成29年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 「にんげん力」のある子どもを育てる遊びの機会と環境をつくれます 2) 保護者のニーズをとらえ、保護者満足度の高いサービスを行います 3) 地域のみんが子どもを育てるコミュニティーづくりを目指します 4) 一人一人が提案、実行できるパワーのある保育者集団を目指します</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに一番近い保育者が子どもに必要な体験を提案し実行できる。 ・保育者自身が自己成長を意識する。 <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のクラスの子どもはもちろんのこと、保育園全体、保育園に通園していない在宅の子ども、日本全体の子どもたちに自分たちは何ができるかを常に意識する

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	「人対人コミュニケーション」を身につけるための保育が行われています
	内容	保育目標の中に「人対人コミュニケーション」があります。園外では「すれ違ったすべての人」とあいさつを交わしています。3～5歳児の商店街ツアーでは質問タイムを設けて、店の方に仕事について質問して興味を深めています。お風呂の日には、地域の銭湯に出かけ、保育士と子どもがいつもの風呂に入り裸の付き合いをしています。そのほか青空保育など、地域交流行事を多く取り入れ、1人でも多くの「ひと」とあいさつを交わし、1つでも多くの「仕事」を目にすることで「物おじせず、だれとでも目を見て話ができる子ども」を育てています。
2	タイトル	自家栽培した米や野菜を献立に提供したり、さまざまな体験ができる食育を計画しています
	内容	新潟県魚沼市にて自家栽培した米、園内のプランターや屋上菜園で栽培した野菜、魚は地域の商店から仕入れるなど、こだわった食材を給食に提供しています。食育計画は、0歳児から5歳児まで、年齢に応じて健康・人間関係・文化・命の育ち・料理の5分野をバランスよく学べるようにしています。今年度は、自家栽培した野菜を子どもたちが収穫して、その日のうちに献立に提供することに力を入れたことで、食材への興味をより引き出し、嫌いな野菜でも食べられるようになるなど、目に見える効果が得られています。
3	タイトル	お迎え時に、一日の子どもの様子を保護者に確実に伝えています
	内容	保護者は、子どもが今日一日園でどのように過ごしたのか、とても関心があります。降園時に時間帯によっては、保護者と十分に話ができないこともあります。お迎えが重なる時間には、一言声をかけたり、アイコンタクトで「お待たせして申し訳ない」という気持ちを伝えたり、子どもの活動中の写真や作品を見てもらうなどして「待った気がしないサービス」を提供しています。このようにして、子どもの日常の様子をていねいに伝えるように、各職員が意識的に行っています。今回の利用者調査では、お迎え時の伝達対応については高い評価が得られました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育園運営の基本的な考え方について、職員へのさらなる浸透を図られるよう期待します
	内容	園は「人間力」のある子どもを育てる遊びの機会と環境を作り、家庭的な雰囲気の中で情操教育を中心に子どもの保育に取り組んでいます。そして折に触れて、全体会議や法人の全職員が集まる合同研修会などで、保育理念とそれに基づく保育の在り方を話し合っています。しかしながら、こうした施設長の姿勢や思いが、今回の職員の自己評価によると、若い職員や最近入職した職員に十分には伝わっていないようです。このような意識の差を縮めていくためにも、今後さらなる検討や工夫をされるよう期待します。
2	タイトル	人材構成の適正化について、さらなる改善を期待します
	内容	園では「子どもに一番近い保育者が子どもに必要な体験を提案し実行できること」などを求めています。しかし昨今の保育士不足の中で、十分な人員確保と定着性の維持は、難しい状況にあります。保護者の中には「保育士の退職が目立つので、信頼して預けられる責任感のある保育士の育成を望む」という声や、職員の中には「必要とする人材採用の確保や人数に余裕がないため、見守る保育や意思尊重が十分にできない」などの意見がありました。今後は現状における各課題を検討して、人材構成の適正化について、さらなる改善に努められるよう期待します。
3	タイトル	苦情解決の仕組みについて、さらなる検討を期待します
	内容	苦情解決の仕組みについては、入園のしおりに明記してあります。苦情や意見が寄せられた場合は制度の仕組みに沿って、速やかな解決につなげるように努めています。保護者などから園に対する苦情は現状では少ないようですが、保護者の中には園に対して、直接苦情を表明しにくいこともあるようです。今後は、園と保護者の間に立って苦情が解決できる第三者委員や、区の担当課への仕組みについても、さらに周知されてはいかげでしょう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子どもたちが遊びこめる保育環境の整備や充実が図られています	
内容①	今年度の園内研修では、子どもたちが遊びこめる環境設定をさまざまな角度から、一年をかけて考察しました。コーナーやゾーン保育の導入などの保育室内や、園庭の環境、おもちゃの選定、職員のかかわり方などについて、職員間でのグループワークや課題検討を通して多方面から検討し、子どもたちの現状にあった内容を提供できるようにしています。子どもたちがやりたいことや、ワクワク感を大切にできるようなかかわりを、職員は尊重するようにして、子どもたちの主体性を引き出せるようにしています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	異年齢保育を取り入れて、家族のような雰囲気を大切にしています	
内容②	2歳児クラスも秋ごろからは、3～5歳児の異年齢グループに合流して、散歩や給食、製作活動などを行っています。発表会も、異年齢グループで発表する内容を話し合っ決めており、やりたいことや適性をみんなで考えながら決めていけるようにしています。異年齢での活動は、年齢の大きい子どもは小さい子どもを気遣い、小さい子どもは大きい子どもを手本にするなど、互いが刺激を与え合いながら成長していける利点があります。家族のような関係性を園でも提供したいという考えのもと、子どもたちが互いを認め合えるように支援しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	2-2-1	事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある
タイトル③	園庭開放や保育室開放などの地域子育て支援や、地域交流に力を入れています	
内容③	地域に向けては「ちきんえっぐだより」を発行して、園での行事案内を掲載しています。園内の一室を地域の子育て世代に開放して、自然学校や自然食堂、芸術学校などのイベントも盛り込むことで、興味を持ってもらえるようにしています。園庭開放も毎日実施して、飼育しているヤギと触れ合ってもらったりなど、当園ならではの体験を提供しています。商店街など恵まれた環境を生かして、散歩や買い物に出かけて地域の方々との交流を持つなどの機会を多く設けています。近隣の老人会とも定期的に交流して、世代間の触れ合いを楽しんでいます。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○ 非該当
	● あり ○ なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○ 非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○ 非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	● あり ○ なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○ 非該当
	● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○ 非該当

カテゴリー1の講評

保育理念や保育目標を明示して、これらを周知しています

保育理念や保育目標などは、園のパンフレットや入園のしおりに明示するほか、玄関ホールに掲示しています。保護者には入園説明会や保護者懇談会のなかで説明しています。職員には採用時に、理念や方針、各種マニュアルなどをまとめた「保育品質マニュアル」を配付して、詳しく説明しています。施設長は、年度初めの全体会議（職員会議）で職員の心得などを話しています。特に子どもや保護者には、ていねいな言葉遣いと対応を心がけ、信頼が得られるよう行動することなどを通して、理念の浸透を図っています。

施設長や主任の経営層は、自らに課せられた責務を表明し、園をリードしています

施設長はじめ各職員の職務については、職務分担の中に明示されています。これらの職務については、4月の全体会議の際、施設長を通じて確認しています。施設長は園の業務を統括し、所属職員を指揮、監督するとともに会計事務の責任者であり、主任は施設長を補佐し、保育内容について保育を統括しています。また、経営層は、区内の私立保育園の園長会や事業者連絡会など、外部の各種会合に出席するとともに、施設長は法人グループの施設長会や施設長研修会などに参加し、自らに課せられた職務を果たしています。

職員や保護者に決定事項が確実に伝わるように努めています

重要案件は、園の全体会議などで議論した結果を施設長が起案し、グループの施設長会議で協議し、経営会議で決定しています。決定事項は、全体会議や昼礼ミーティングで職員に伝えています。さらに議事録も作成し、職員全員で確認できるようにしています。保護者に伝える際には、保護者懇談会やお知らせ、文書の配付、掲示を行っています。できるだけ早めに知らせることで、複数回伝えたり、質問の機会も増え、理解が得られやすいよう配慮しています。

カテゴリ2		
2	経営における社会的責任	
サブカテゴリ1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

カテゴリー2の講評

職員には、保育に携わる者としての心得を周知しています

職員が守るべき法、規範、倫理などについては、就業規則の服務規律や保育品質マニュアルの中に明記されています。特に保育品質マニュアルには、個人情報保護や、児童・保護者の人権尊重など、職員が遵守すべき事項などを明示しています。職員は年2回人権チェックリストで自己点検を行い、施設長の確認を受けています。園では保育者の心得として、従来の保育観や経験にとらわれず、目の前の子どもたちにとって最善の保育方法や保護者との信頼関係の中で、「あいさつや笑顔」から始まる他者との関係や感謝する心を大切にしています。

地域の人々に向けて、保育の専門知識やスキルを提供しています

園は2013年に開設し、地域に開かれた保育園作りに努めています。地域子育て支援事業としては、毎日午前中は園庭を開放し、その際には子育て相談にも快く応じています。毎週自然食堂(親子ランチ交流)やネイチャーゲーム、野外遊びのどろんこ自然学校、月1回は公園に出向いて青空保育を実施したり、地域子育て情報誌「ちきんえっぐだより」を毎月発行しています。高齢者施設へは隔月に訪問したり、5歳児が小学校を訪問し異年齢交流をしたり、そのほか商店街ツアーや銭湯でのお風呂の日など、地域拠点活動にも力を入れています。

ボランティア受け入れや地域のネットワーク会議などに参加しています

福祉に関心の高い中学生の職場体験や、大学や専門学校の実習生などを受け入れています。受け入れに際しては、受け入れマニュアルに沿って、子どもとのかかわりで気を付けることやプライバシーの尊重などの留意点を十分説明しています。近所の魚屋には魚のさばき方を見せてもらっています。また、園では地域の関連機関と連携を図り、認可保育園園長会や地域保育園連絡会などに参画し、福祉サービスの幅広い情報を収集したり、意見交換を行っています。特に最近では、保育行政の動向や待機児童問題が話題になっています。

カテゴリ3		
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
サブカテゴリ1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む) 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリ3の講評		
苦情解決制度を整え、速やかな対応に努めています 苦情解決の仕組みについては、入園のしおりなどに明記し、保護者に対しては、入園説明会や保護者懇談会で説明しています。玄関には苦情解決の概要を掲示し、ご意見ボックスを設置しています。意見や要望の申し出方法は、書面や面談によるものや外部の第三者委員にも相談できますし、ホームページから意見を書き込むこともできます。苦情や意見があった場合は、内容によっては主任や施設長が対応し、必要があれば施設長が法人本部と協議し、速やかな解決に努めています。解決の結果については、口頭もしくは責任者から申し出人に報告しています。		
保護者の意向を把握して、サービスの向上につなげています 法人独自の年1回の利用者アンケートや保護者懇談会、保護者面談、親子参加行事である運動会や発表会の際のアンケートなどを通して、さまざまな意見や要望をくみ上げています。また、日々の連絡帳や育児相談などでも保護者の意向を把握し、職員会議などで検討し、できるものから実施するように努めています。例えば、利用者アンケートの中に見られたお迎え時の子どもへの対応に関する意向を参考に、伝言内容の充実や子どもへのていねいな言葉かけなど、全体会議や園内研修で話し合い、改善に努め、保護者から高い評価が得られた事例があります。		
地域の事業環境などに関する情報をさまざまな方法で収集し、活用しています 地域の福祉ニーズについては、区の私立保育園の園長会や地区の町会、連絡協議会など地域との交流を通して情報を入手しています。園長会が実施する各種事業や部会活動からも多くの情報が得られるようになっていきます。また、行政や福祉業界の動向については、都の民間保育協会や行政主催の研修会、説明会への参加、保育の専門雑誌などからも幅広い情報が得られます。経営層は、こうした情報を精査して職員会議などで伝達したり、文書を回覧したりして周知を図っています。		

カテゴリ4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している 評点(000)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している 評点(0000)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる 評点(0000)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にすることの取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

4/4

評価項目1

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(〇〇〇〇)

評価

標準項目

あり なし

1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している

非該当

あり なし

2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している

非該当

あり なし

3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている

非該当

あり なし

4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる

非該当

カテゴリ-4の講評

園では中長期の視点からの計画を策定しています

園では中長期の計画として、保育環境の充実、保育サービスと職員のスキル向上、地域貢献などを考えています。さらに園として新しいスタイルの保育園の在り方を模索しています。施設長は「将来的に子どもたちが自ら考え、子ども同士でのかかわりの中から学ぶ環境を作ることを」挙げています。そのためには、中長期的視点から若手を中心に職員の質の向上が求められます。職員間で研さんを重ね、各自の持つ得意分野の専門性を一段と高め、さまざまなテーマに対して子どもたちが自ら選択し遊びこめる「ゾーン保育」の実現を目指しています。

事業計画は職員の意向を反映して、主体的に実施されています

事業計画は、前年度末に全体会議などで検討した内容をもとに、施設長が事業計画を作成し、本部の承認を得て決定しています。内容を定めるにあたっては、毎年1月ごろに全職員が「次年度年間エントリー」を提出し、それらを基に2月から3月にかけて年間計画策定会議を開催して、翌年度の年間行事などについて決定します。施設長は年度計画作成後、方針や目標、職務分担に沿って園の運営がなされているかの進捗状況を、毎月の予定表を見ながら確認しています。施設長は必要に応じて、職員に個別に助言や指導をしながら、計画の実行を支援しています。

子どもの安全の確保、向上に計画的に取り組んでいます

子どもの安全、安心の確保を最重要の課題ととらえ、事故や災害、感染症から子どもを守る体制作りに取り組んでいます。園内の安全対策として、地震や火災、不審者に備えての訓練を毎月実施しています。また、職員の持参している「保育品質マニュアル」には、病気やけが、安全、衛生などの項目が網羅されており、事故などが生じた際は、その個所を読み合わせて再発防止につなげています。職員は定期的に年齢別の「事故防止チェック」や「設備点検」を実施して安全管理に努めています。系列園の感染症や事故発生の情報なども全園で共有しています。

カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 8/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>園で必要とする職員の採用は、法人本部が一括して行っています</p> <p>園の求める人材の要望は、園担当の運営部マネージャーを介して依頼し、本部で一括して採用しています。園が求める職員像として「子どもに一番近い保育者が子どもに必要な体験を提供し、実行できる人。保育者自身が自己成長を意識することができる人」、職員に持ってほしい使命感として「保育園全体、保育園に通園していない在宅の子どもたちに、自分は何が伝えられるかを常に意識する人」を明記しています。園への職場配置は、本人の希望、適性、ベテラン職員との組み合わせなどを配慮して決め、職場内での指導が十分できるようにしています。</p> <p>職員の資質向上に向けた研修制度が充実しています</p> <p>職員は年度末に「外部研修アンケート」を法人本部に提出し、外部研修に参加できるように配慮しています。また、法人には施設長・中堅スタッフ・新人研修、各分野の保育研修など、多岐に及ぶ研修プログラムが用意されています。施設長は、年初には職員一人ひとりの意向や経験を考慮し、総合的な判断から園の研修計画書を作成して、職員を研修に参加させています。研修受講後は、研修報告を行うことで、研修成果を共有化しています。さらに年1回の全社合同研修の開催や、毎月1回、職員は自らの得意な分野の講師として園内研修を担当しています。</p> <p>職員の育成と能力向上を図るため、施設長は職員と面談しています</p> <p>年2回、人事評価シートに基づき、職員の自己評価と上司による評価を行っています。それらを踏まえて、施設長は職員との定期的な面談を実施し、その結果は賞与などに反映させています。面談の話し合いの中から、次年度の課題や自己啓発につながるよう適切なアドバイスを与えています。また、就業状況を施設長と法人本部で管理し、特に超過時間勤務や、有給休暇の取得や消化など、職員の健康管理にも配慮しています。しかし一方では、採用難から「人材構成」に関する職員の要望が強く、「やる気向上」への影響も含め、一層の改善が期待されます。</p>		

7			カテゴリ7	
情報の保護・共有			サブカテゴリ1(7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる			評点(000)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している		○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		○ 非該当	
評価項目2 個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している			評点(0000)	
評価	標準項目			
● あり ○ なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		○ 非該当	
カテゴリ7の講評				
個人情報の入った書類などは施錠管理しています 児童票や、職員や保護者の個人情報の入った書類は、事務室の鍵のかかる書庫で保管しています。事務室には職員以外の立ち入りは禁止しています。子どもに関する管理ファイルは、新しい情報があるごとに随時更新しています。園のパソコンにはそれぞれにパスワードを設定して、アクセスに制限を設け、記憶媒体(USB)の使用は禁止しています。保存期間が経過して不要になった個人情報に関する書類は、業者に委託して廃棄処分しています。				
保護者全員から個人情報に関する承諾書ももらっています 個人情報の取り扱いは個人情報保護方針などに定めており、保護者には入園説明会の際、個人情報の利用目的などを詳しく説明しています。園では外部に個人情報を漏らさないこと、また、園ではどういう場合に写真を撮ったり、記録を残すかということを説明し、保護者全員から個人情報の保護や公開に関する承諾書ももらっています。新任職員の入社時の研修では、人権や個人情報の取り扱いについて説明し、誓約書の提出を求めています。実習生やボランティアにも守秘義務の必要性を説明し、理解が深まるようにしています。				

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1(8-1)

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー1:「リーダーシップと意思決定」
 ・カテゴリー2:「経営における社会的責任」
 ・カテゴリー4:「計画の策定と着実な実行」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

法人代表により、法人の経営方針などの説明があり、職員の理解が一段と深まりました

全員参加の三法人合同研修会が実施され、法人代表が直接、事業計画などを説明しました。これらを通して、職員は経営幹部の思いを知り、法人全体の運営方針や今後の展望を聞く良い機会になりました。その際に、他園の保育現場で日々起きている問題や課題に対する取り組み事例なども発表され、職員のモチベーションアップにつながりました。

サブカテゴリー2(8-2)

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー5:「職員と組織の能力向上」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

園内研修を実施し、多くの学びにつながりました

園内の自主研修を年間計画に沿って、毎月1回、実施しました。特に子どもたちのわくわく感につながる室内環境の整備をテーマにグループワークを実施したり、職員がそれぞれ自らの専門性の高い得意なテーマを発表して、職員全員で学び合いました。

サブカテゴリー3(8-3)

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている
 ・カテゴリー6:「サービス提供のプロセス」
 ・カテゴリー7:「情報の保護・共有」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

チェックシートの整備などにより、保育サービスの標準化が促進されました

平成28年度に法人の運営部がISO9001(保育における国際品質管理規格)の認証を取得しました。内部監査チェック表の整備などにより、防災、保育、安全対策などの帳票類が作成され、園で提供するサービスの標準化が図りやすくなりました。また、園での保育内容や人間関係などについて問題点の把握にもつながり、改善の良い機会になりました。

サブカテゴリ4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

園の運営は堅実に推移しています

地域に開かれた保育園として存在感は高まっています。園児定員数70名に対して、在園児数は弾力的運用もあって、79名と在園率は112.8%を確保しています。また、行事や教材費など、予想されるコストを確認し、費用対効果を明確にしたり、月々の予算管理に取り組んでいます。そのほか、牛乳パックやペットボトルなどの廃材を活用して手作りの備品や教材に使用したり、職員のコスト意識を高めています。

サブカテゴリ5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している
・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

利用者の要望に応える取り組みに努めました

毎年の法人独自の利用者アンケートや、保護者懇談会、保護者面談、親子行事の際のアンケートなどに寄せられた意見や要望などは真摯に受け止め、それらを各種会議で話し合い、できるだけ保護者の意向に沿えるように努めました。例えば、お迎え時の的確な伝達方法や子どもへののていねいな言葉かけなどを心がけました。これらの結果、今回の利用者調査では非常に高い満足度が示されました。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリー1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/> 非該当
	サブカテゴリー1の講評	
	<p>園の情報は、パンフレットやホームページなどから収集できるようにしています</p> <p>パンフレットは、理念や方針、デイリープログラムなどの基本情報から、裸足保育や異年齢保育、課外体験プログラムなど特色ある保育内容を、わかりやすく伝えるように工夫しています。ホームページでは、法人の基本姿勢や思いについて図や写真を多用して伝えて、園の方針について理解を深められるような作りとなっています。遠方の方や、事前にパンフレットを入手したい方には、郵送対応をしたり、ホームページから園だよりや食育だより、保健だよりをダウンロードできるようにするなど、利用希望者の利便性の向上に配慮しています。</p> <p>区にパンフレットやお便りを提出したり、必要な情報を提供するなど連携を図っています</p> <p>区には、パンフレット一式とお便りを提出したり、定員の空き情報を報告するなど必要な情報を提供して連携を図っています。区のホームページから園内保育園の案内へリンクされており、地域の方が知りたい情報を得ることができるようにしています。また、小冊子「区私立認可保育園ガイド」にも、情報を提供して園の情報を多くの方に知ってもらえるように努めています。パンフレットの設置は今年度は園内のみでしたが、次年度以降は地域センターや児童館などにも設置してもらい、イベントなどを通して園の存在を知ってもらえることを目指しています。</p> <p>利用希望者には、可能な限り見学対応を取って園に足を運んでもらうようにしています</p> <p>利用希望者には、多くの方に見学に来てもらえるよう、急な問い合わせであっても可能な限り対応するようにしています。なるべく個別での案内を基本としていますが、希望者が重なった場合には少人数グループとすることで、ゆっくりと見学できる時間を確保するようにしています。見学の際には、パンフレットの内容をもとに、園の理念や姿勢、特色ある保育内容について、ていねいに説明しています。裸足保育や異年齢保育などの取り組みについては、実際に子どもたちの様子を見てもらうことで理解を深めてもらうようにしています。</p>	
	サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点(〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている <input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している <input type="radio"/> 非該当

評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園説明会と面接を実施して、子ども一人ひとりの情報の把握に努めています</p> <p>入園が決まった際には説明会と面談を実施して、子ども一人ひとりの情報を把握して保育内容に生かすようにしています。今年度より法人のホームページから、成長過程や家庭環境などの情報をあらかじめ入力してもらい、面談に臨むようにしています。なお情報は書類での提出も可能です。説明会では重要事項説明書と入園のしおりを使用して、園の理念や目標、約束事について説明し、いっしょに読み合わせることで理解の相違がないようにしています。面談にて聞き取った詳細については「入園前児童面談票」に記載して、職員間で共有するようにしています。</p> <p>利用開始直後は子どもが環境に無理なくなじめるよう、慣れ保育を推奨しています</p> <p>利用開始直後は、子どもが環境になじんで安心できる場所だと理解してもらえよう、慣れ保育を推奨しています。保護者の就労状況と子どもの様子を見ながら、初日は短時間で降園してもらい、様子を見ながら昼食や午睡を体験して、最終的に一日を過ごせるように支援しています。まずは保育室の環境や保育士に慣れてもらうことを最優先としており、保護者と相談しながら無理なく時間を延ばしていけるようにしています。入園当初は、職員間の連携を密にして、子どもの情報を共有するようにして、保育の連続性が図れるようにしています。</p> <p>退園や卒園した子どもを行事に招待したり、随時相談にのるなど関係性を継続しています</p> <p>年度の途中などで転園する子どもには、切れ目なくサービスを受けられるように配慮して、保護者と連携を取って進めるようにしています。退園の際には、それぞれのクラスで絵を書いて渡すなどのお別れ会をして、思い出を大切にできるように配慮しています。保護者には、転園後も随時相談を受け付けていることを伝えて、関係性を継続できるようにしています。退園や卒園した子どもには、運動会やどろんこ祭りに招待したり、行事以外でもいつでも気軽に寄ってもらえることを伝えており、心のよりどころとなれるように努めています。</p>		
サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12 / 12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
 保育課程や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目4
 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ3の講評

全職員で保育課程を作成して、子どもたちの連続した発達を追えるようにしています
 保育課程は毎年全職員で意見を出し合い、園目標に沿って子どもたちの発達を適切に促せる内容となるようにしています。今年度は、「元気に挨拶できる子ども、思いやりのある子どもを育てます」「子どもの心や思いを受け止め、一人ひとりに寄り添った保育を行います」「子どもがわくわくする保育を目ざし、体や心から湧き出る発達欲求を受け止め、環境構成や援助を創意工夫していきます」の三項目を目標として掲げて、年間指導計画、月案、週案にも反映させて子どもたちの連続した発達を支援できるようにしています。

子どもの日々の様子を記録して、定期的に内容の検討や見直しを行っています
 入園前の子どもの様子や家庭環境は、法人のホームページから指定の項目を入力してもらい、職員間で情報を共有しています。入園後の様子については法人指定の様式「子どもの様子」に記入して、成長の過程を記録するようにしています。子どもたちの日々の様子については、昼礼会議や園会議にて情報共有を行い、適切な支援方法や保育環境について話し合う場を設けています。個別支援計画を作成するのは2歳児クラスまでですが、子どもの口調や落ち着きなどの様子で気になる場合には重点的に見守りを行い、課題を洗い出せるようにしています。

毎月末には保育の振り返りを実施して、翌月の計画に生かせるようにしています
 日々の保育の様子については日誌に活動内容を記録して、保育者の援助や配慮、保育環境が適切であったかどうか、毎日振り返りをしています。月末には、子ども一人ひとりの様子を「子どもの様子」に記入して、連続した発達を促すようにしています。急を要する事案や、職員全体で共有しておいたほうが良いと判断した事案については、「職員連絡ノート」に記載して共有しています。月末には全体で各クラスの保育内容について振り返りを実施して、翌月の月案や週案に反省点を生かしています。

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○ 非該当
サブカテゴリー5の講評		
子どもの気持ちをくみ取り、羞恥心に配慮したかかわりを大切にしています プールは3階のウッドデッキで行いますが、実施の際には周囲をよしなどで覆って目隠しにしています。着替えは保育室の中で行うことを徹底して、不必要に周囲の目にさらされないようし安全にも配慮しています。日ごろ着替えの際にも、パンツ一枚にならないように、上下どちらかを着ているように声かけを行っています。法人のプログラムの特徴の一つである性教育指導では、絵本や人形などを使用して、性差や命の大切さを学びました。次年度以降は単発ではなく通年実施を計画して、体の仕組みや命を体系的に学べるようにすることを目指しています。		
子ども一人ひとりの個を大切にしたかかわりを、法人全体で取り組めるようにしています 子どもが興味を持ち活動に取り組んでいる際には、安全に留意して見守る姿勢を大切にしています。発達に即した対応について常に検討できるようにしており、子どもたち自らが考えて自主的に行動できるように支援しています。子どもの気持ちのみではなく、保護者の価値観や生活習慣についても尊重できるよう、日々のかかわりの中でのコミュニケーションを大切にしています。子どもの人権の尊重については、「人権チェックリスト」を活用して、年2回職員は自己採点を実施して保育の姿勢やかかわり方について振り返るようにしています。		
虐待防止マニュアルに基づき、園全体で見逃さない体制を取れるようにしています 虐待が疑われる事象があった際には、虐待防止マニュアルに沿って対応するようにしています。マニュアルには、虐待の定義、家庭内での虐待と保育士による虐待、早期発見、対応などについて明記して、小さなサインを見逃さないようにしています。疑わしき事象があった際には、施設長から法人本部へ報告して法人全体で対応することとしています。必要に応じて、子ども家庭支援センターなどと連携して、情報交換を行えるようにしています。職員は内部研修や外部研修に参加して、虐待についての理解を深めています。		

サブカテゴリー6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

11/11

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目3
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(00000)

評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した保育ができるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ6の講評

「保育品質マニュアル」に基づき、保育内容の共通理解を進めていけるようにしています

全職員が入職時に「保育品質マニュアル」の貸与を受け、常に携帯して見返すことでサービス内容について共通理解を得られるようにしています。保育品質マニュアルに記載されている、けが、病気、衛生管理などのフローチャートは保育室内に掲示して、適時確認できるようにしています。入社時にはマニュアルに沿って研修を実施して、その後は実際の保育の中で到達度を確認する体制を取ることで、職員が同じレベルを保てるようにしています。年に1回内部監査を実施して、サービスの標準化を図るようにしています。

「危機管理マニュアル」を活用して、安全な保育環境を提供できるようにしています

危機管理マニュアルには、事故、見失い、置き去り、与薬、災害、不審者侵入などの項目を設けて、子どもたちの安全を守るように努めています。保育環境の見直しとしては、定期的に全クラスで「事故防止チェックリスト」「設備点検チェックリスト」を使用して安全点検をしています。毎日、保育室内の環境や散歩先での危険箇所について意識するようにして、ハザードマップを作成して職員間で共有しています。内部監査項目に沿って園内の危険箇所を自主的に定期チェックすることで、常に安全な保育環境を提供できるようにしています。

「コンピテンシー集」を活用して、職員のレベルを一定に保つようにしています

コンピテンシー集を作成して、職員は行動指針、マニュアル指針として携帯しています。コンピテンシー集には、冷静さ、解決策の立案、有言実行、礼節を守るといった項目があり、園会議では、毎回、この中から項目を抜粋して、日々の保育姿勢についてや、内容についてどう感じたかを発表しています。日々の保育の中で気になる言動があった際には、施設長や主任が個別に注意喚起をしています。子どもたちの目線での気づきや、保護者の気持ちをくんだ対応とはどのようなものか、いっしょに考えるようにしています。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつぎ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当	
● あり ○ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもたちがやりたいことをやれる保育環境の設定を、常に意識するようになっています</p> <p>今年度の園内研修では、子どもたちが遊びこめる環境設定をさまざまな角度から一年をかけて考察しています。遊びこめる環境や、発達に合わせたおもちゃの提供、ワクワク感を引き出す工夫について職員間で意見を出し合い、現状に満足するのではなく、あるものを最大限に活用した保育の展開を目指しています。保育士が主導するのではなく、子どもたちが主体となり、興味を引き出して、どう実現させていくかについて常に考えながらかかわるようにしています。訪問時にも、予定していた散歩を子どもたちが望む遊びに変更する対応が取られていました。</p> <p>子ども同士のトラブルについては、過度に手出しをしないことを基本姿勢としています</p> <p>2歳児以下のクラスでは、引っ掻きやかみつぎなど言葉より先手がでてしまうことがあります。保育士配置や日ごろの様子観察から危険につながりやすい行動を察知したり、子ども同士が密になりすぎないようにするなど配慮して、未然に防ぐように努めています。年齢が高くなると言葉での攻撃などが増えてきますが、すぐに保育士が介入するのではなく、子どもたち同士で解決していく力を養っていけるように支援しています。社会性を身に付けることができる好機でもあると捉え、互いの気持ちを尊重するようなかかわりを促すようにしています。</p> <p>小学校入学に備えて、保育内容に変化をつけて対応するようになっています</p> <p>小学校入学に備えて、11月ごろより午睡の時間を徐々に少なくして、2月からは午睡なしでも過ごせるようにしています。玄関掃きやヤギの世話、朝の会の司会といった係活動も、就学を意識した内容となっています。園では3歳児クラスから、「のびのび」というワークの時間を毎週30分程度取っており、椅子に座るという習慣を徐々に身に付けられるようにしています。近隣の小学校とは、見学や授業体験での交流や、給食をいっしょに食べるなど楽しい時間を設けることで、入学に期待感を持てるようにしています。</p>			
2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当	
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当	
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当	
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当	

評価項目2の講評

登園時には子どもの様子を注意深く観察して、体調の変化を見逃さないようにしています

登園時には、子どもの顔色や声の調子などいつもと違う様子がないかどうか、注意深く観察しています。朝は「お変わりないですか」と保護者に声をかけることで、家庭での様子や気になることなどを、話してもらいやすい雰囲気になっています。保護者からの連絡事項は「視診表」に記載して、受け入れ担当以外の職員にも確実に送れるようにしています。特に配慮すべきことや、注意事項などは「職員連絡ノート」に記載しています。職員は出勤時にノートを確認してから保育に入ることで、統一の対応を取れるようにしています。

子ども一人ひとりの発達度や家庭環境を考慮して、生活習慣の習得を支援しています

保育課程や年間指導計画、月案などをもとに、子どもの発達状態を踏まえて、2歳児までは個別指導計画を作成して、発達段階に応じて必要な生活習慣を習得できるように援助しています。離乳食やトイレトレーニングは、子どもの様子に加えて家庭とも協力して進めていくようにしており、様子を随時伝えて保護者の同意を得てから次の段階に進むようにしています。生活習慣の習得では、子どもが窮屈に感じないように、楽しんで取り組めるように声かけや励ましを多くすることで、できることの喜びを感じながら進めていけるようにしています。

「3分間対応」を実施して、子どもの生き生きした様子を伝えられるようにしています

お迎え時には「3分間対応」を実施して、子どもたちの日中の生き生きとした様子を伝えて、保護者の安心につなげるようにしています。職員間では「伝達ボード」を活用して、申し送りを密にして確実に伝えるようにしています。伝達ボードには、エピソード記録を記入する欄を設けて、出来事のみを伝えるのではなく、子ども一人ひとりの様子や反応、どのようなことを言ったかなどについて、詳細に伝えるようにしています。良い事ばかりではなく、ありのままの姿を伝えることで、子どもの日ごろの様子を理解してもらえらるようになっています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

裸足保育を実施して、子どもたちの健康な育ちを支援しています

裸足保育では卒園までに足指で地面を捉える力を育て、「歩く・走る・飛び降りる・よじ登る・横や後ろに動く」という動作を習得して、運動感覚を育てることを目的としています。職員も素足になり子どもとともに外遊びを楽しむ、「背中を見せる保育」を実践しています。保育室から続くウッドデッキでは、雑巾がけをしたり、ハイハイをしたりと手足を十分に使った遊びを展開して、健やかな成長を促すようにしています。裸足になることは強制ではなく、やりたい、楽しそうだと子どもに思ってもらうことで、自主的に裸足になるように促しています。

異年齢保育を取り入れ、他者との違いを受け入れながら成長できるように促しています

2歳児後半からは、異年齢による合同保育を取り入れています。3つのグループに分かれて、散歩や給食、製作活動などを異年齢で取り組んでいます。日々の活動では、大まかな時間枠を伝えて、5歳児が中心となり自分たちで時間割を考え、どのように行動したらよいのかについて導き出せるようにかかわっています。保育士が誘導するのではなく、グループ内でそれぞれが役割を持って集団活動をすることで、自分にはない物や違いを認め合い、仲間と協力しながら、ともに成長していくようなかかわりを支援しています。

戸外活動を多く取り入れ、季節の移ろいや小さな発見を日々体験できるようにしています

天候不良でない限りは午前中は散歩に出かけ、夕方は日没まで園庭で遊んでいます。散歩では、季節の植物や虫などに触れる機会を意図的に設けて、子どもたちの好奇心を刺激しています。子どもが自らやってみて体験することで良い悪いを学び、周囲の状況に気づいていくことを大切にしており、自然遊びの中でさまざまな経験ができるようにしています。拾ってきたどんぐりや落ち葉、花などは作品にして、身近な物を活用して楽しんでいます。園庭は固定遊具はあえて配置せず、泥の斜面など自然形状を生かした作りにして、全身で遊べるようにしています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当
評価項目4の講評		
<p>大きな行事では、協力して成し遂げることの過程を大切にしています</p> <p>運動会や発表会といった大きな行事では、日ごろの取り組みを披露することで、自信へとつなげるように支援しています。成果のみではなく、それぞれの行事開催までに、友だちと協力し合って練習に取り組む過程も大切にしています。演目や役柄などは、それぞれの異年齢グループで決めており、全ての役を体験してから決めるなど、子どもたちの自主性を尊重するようにしています。行事は、ふだんの保育の延長線上にあると捉え、ふだんの遊びを意図的に取り入れることで、日ごろの様子を保護者に見てもらえるようにしています。</p> <p>行事などの年間体験活動は、「プロポーザル制度」を活用して決定しています</p> <p>行事など年間体験活動は「プロポーザル制度」を活用して、職員からの提案を公募して決めています。園内や園外の環境や、子どもたちが興味を感じているものを考慮して、次年度の年間行事を提案して発表しています。毎年決まった事をするのではなく、子どもたちの様子に合わせた行事を職員全員で考えることで主体性が生まれ、職員の気づきや新しい発見が生まれるなどスキルアップにもつながっています。園では毎年行事を刷新するのではなく、前年度に比べて子どもたちの喜びや感動を引き出せる内容を加えて、より良い物にしていくように努めています。</p> <p>行事の際にはアンケートを実施して、保護者の意見を反映させるようにしています</p> <p>行事を決定する際には、前年度の反省を踏まえて保護者の意向も反映させるようにして、より満足してもらえる行事を実施するように取り組んでいます。どろんこ祭りは、保護者と共同で行う行事となっていることから、事前に行事内容について話し合いの場を設けて、協力しながら進めていけるようにしています。保護者からの意見として、毎年同じことの発表ではつまらないという意見もあったことから、プロジェクトを使用し年齢による動きの違いを説明するなど、発達の様子を理解してもらうなどの工夫を加えています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当
評価項目5の講評		
<p>保育時間が長い子どもも、安心して過ごせるような環境を設定しています</p> <p>長時間保育でも子どもたちが落ち着いて過ごせるように、0歳児が全員降園する18時くらいから合同保育の時間にするなど、環境設定を行っています。開園時間は7時から20時としており、19時には夕食を提供するなど保育時間が長い子どもも、無理なく待てるように配慮しています。園では、日没まで園庭で遊ぶ子どもが多いことから、保育室では静の活動も取り入れることで、活動にメリハリを持たせて、無理なく過ごせるようにしています。</p> <p>延長保育の時間は、家庭的な雰囲気の中でくつろげるように配慮しています</p> <p>延長保育時間における保育室の環境設定について職員間で話し合い、子どもの状況に合わせて、コーナー保育や机上の活動を複数提供するようにして、子どもがやりたいことができるようにしています。日中の活動でやり残したことがあれば、延長保育の時間にも継続してできるようにし、棚の上に製作途中の作品を置けるように整備して、連続した保育を提供できるようにしています。夕方の時間には、職員とゆっくりできる時間も設けて、スキンシップを多めにとることで、家庭的な雰囲気の中で、くつろげる空間となるように配慮しています。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

バイキング形式を採用して、自分で食べきれぬ量をよそって完食できるようにしています

食事は一斉に始めるのではなく、時間内に子どもたちが食べたいと思う時に食事ができる環境になっています。おかずやご飯は、自分で食べきれぬ量を決めて取るバイキング形式を採用して、完食できる喜びを味わえるようにしています。献立は和食を中心として、食材そのものの味や、食感を生かした味付けを基本とすることで、子どもたちの味覚を確立できるようにしています。食材は、新潟県魚沼市の法人の農場で栽培した米を使用し、自家栽培した野菜を生かした献立を取り入れるなど、安心安全な食材で食事を提供しています。

給食運営会議を毎月開催して、献立の振り返りを全職員で行っています

毎月1回給食運営会議を開催して、提供した献立について全職員で話し合い、より良い物を提供できるようにしています。職員も同じものを毎日子どもたちとともに食べており、味付け、食材の大きさ、固さなどが適切であるかメモに残して厨房職員に渡す仕組みを取っています。会議では、職員からの意見をまとめたものをもとに、変更すべき点について検討して、子どもたちの喫食率を上げられるようにしています。厨房の職員も、子どもたちといっしょに食事をすることで、食べる様子を見たり感想などを直に聞き、献立の参考にできるようにしています。

年齢に応じた食育計画を作成して、食への興味を多方面から引き出せるようにしています

食育の園目標として「おなががすくりズムの持てる子ども」「食べたいもの、好きなものが増える子ども」「一緒に食べたい人がいる子ども」「食事作り、準備にかかわる子ども」「食べものを話題にする子ども」の4項目を、卒園までに目標とする姿として掲げています。食育計画は月齢に応じて健康、人間関係、文化、命の育ち、料理の5分野を体系的に学べるようにして、子どもたちの興味を満たせるようにしています。次年度より、給食担当の職員も食育計画にかかわることで、クッキングの内容や食材へのかかわりなどを深めていくことを目指しています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

手洗いやうがいなどの生活習慣は、毎日取り組むことで習慣化できるようにしています

手洗いやうがいなどの生活習慣を身に付けられるよう、日ごろから、職員もいっしょに行うことで子どもたちが見習えるようにしています。季節に応じてはやる病気に関しては、そのつど子どもたちに伝えて、予防方法や注意点などを示すことで自分たちで意識できるようにしています。戸外活動では、交通量の多い場所を通ることも多いことから、交通ルールに加えて車などの音からも危険予知できるように伝えていきます。ふだんはのびのびと遊ぶように促していますが、命の危険にかかわる場合には厳しく伝えて、自分の身を守るように援助しています。

健康診断や歯科健診を実施して、子どもたちの適切な成長を見守っています

園医による全園児対象の健康診断は年2回、身体測定は毎月実施して、保育記録に残しています。継続的に与薬が必要な場合は、主治医の判断を得て、「与薬依頼票」を提出してもらっています。入園のしおりやホームページでも投薬の流れについて説明するとともに、与薬依頼票もホームページ上からダウンロードできるようにしています。与薬の際には2名の職員で確認して、慎重に対応しています。保育中のけがなどで受診が必要になった際には、嘱託医や、近隣の皮膚科や整形外科の協力を得て、適切な対応を取れるようにしています。

保護者には、感染症や乳幼児突然死症候群などの園の取り組みを説明しています

毎月保健だよりを発行して、プール熱やインフルエンザなど季節に応じて現れやすい疾病について、予防法や注意点などを伝えていきます。どろんこ保育園の特徴である薄着の習慣についても保健だよりに記載して、家庭と協力して進められるようにしています。行政からの通達を伝えるのみではなく、感染症発生時の園での感染拡大防止の取り組みを伝えることで、安心してもらえるように配慮しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)防止への取り組みについては、0、1歳児の呼気・体位確認を5分間隔で実施していることなどを入園時に伝えていきます。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

保護者の就労状況に合わせて、適切な支援を提供できるようにしています

土曜日保育の実施や、急な残業時には当日でも延長保育の受け入れをしています。急な延長であっても夕食を準備するなど柔軟に対応して、保護者の就労を支えています。家庭環境や就労状況などが変化した際には、迅速に状況を把握して、配慮できるようにしています。面談は、希望があった際には随時実施する体制を整えており、相談事や心配なことがあった際には、気軽に話してもらえる関係性を大切にしています。現在相談室として使用している部屋は、外部から見えないようにカーテンなどで視界を遮るなどの配慮を期待します。

行事や保護者懇談会、誕生日会などで、保護者同士が交流できるようにしています

保護者同士が交流する機会として保護者懇談会、運動会、発表会、誕生日会などがあります。保護者と園とで協力する行事に「どろんこ祭り」があります。今年度は、流しそうめん、屋台、ゲーム、ウォークラリーを、保護者の有志が主体となり、運営から実施までを園と協力して作り上げました。行事は日ごろの保育の延長であるとして、特別なことをするのではなく、子どもたちのありのままの姿を見てもらえるようにしています。連絡帳機能を備えたアプリを活用して、行事の取り組みの様子を毎日伝えて、保護者の理解が深まるようにしています。

送迎時対応や保育参加を通して、子どもたちの様子を理解してもらおうように努めています

毎日の送迎では保護者とのコミュニケーションを積極的にして、何かあれば相談してもらえる関係性を構築するようにしています。3分間対応や連絡帳機能を備えたアプリなどを活用して、園生活の詳細を伝えるようにしています。保育参加は通年を通して実施しており、希望の日に参加してもらえる体制を整えています。次年度は各家庭1回の参加を必須化して、子どもたちの日ごろの様子への理解を深めてもらう機会とすることを目標としています。保育参加後はアンケートを実施して感想や意見を伝えてもらい、今後の参考として反映できるようにしています。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもたちが地域に出る機会を多く設けて、さまざまな人と交流できるようにしています</p> <p>法人の保育目標である「人対人コミュニケーション」では、園外ですれ違った全ての人とあいさつを交わすことを基本姿勢としています。この目標を軸に、毎日の散歩や商店街ツアー、銭湯でのお風呂の日など、地域資源を最大限に活用して、子どもたちがさまざまな人たちとかわる機会を設けています。地域の老人会の集まりにも参加して、歌や合奏、伝承遊びなどを楽しみながら体験しています。商店街が近くにある立地を生かして、こどもの日やハロウィンのイベントに参加するなど、地域の方々との交流を積極的に行っています。</p> <p>園の行事や地域交流事業に、地域の方々に足を運んでもらえるように努めています</p> <p>どろんこ祭りや運動会には、地域の方や卒園した子どもを招待して交流を持てるようにしています。日ごろから、散歩の際のあいさつや、お花や食材を買いに商店街に出かける機会を生かして、地域の方々に顔を覚えてもらえるようにしています。5歳児クラスは、地域の保育園合同の運動会に参加したり、近隣の小学校との交流を持っています。地域の子育て世代に向けては、青空保育や園庭開放などの自主事業を実施して、園の資源を地域に還元し、地域とともに成長していくことを目標としています。</p>		

[ver.2]

調査対象

保育園を利用している64世帯を対象に調査を実施しました。在園児は79名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。

利用者総数

79

利用者家族総数(世帯)

64

共通評価項目による調査対象者数

64

共通評価項目による調査の有効回答者数

24

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

37.5

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が12人(50%)、「満足」が10人(41.7%)で「満足」以上の回答は合計22人(91.7%)でした。

自由意見には、「子どもと担任の先生の信頼関係が強いので、安心してお任せしています」「どろんこ保育園はとにかく『すごい』です。保護者のため、子どものための努力が他園とは比べ物になりません」「泥だらけで遊ぶなど、家庭ではなかなかさせてあげられないことを保育園で体験させていただける点がとても良いです」「きっちり時間をくぎり、それぞれの時間で目的をもった保育カリキュラムが組まれています」「先生方が保育理念を懸命に体現してくださっていて、頭が下がります。この保育園で本当によかった、とても満足しています」など、園への感謝を寄せる声が多くありました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになってきているか」で95.8%の保護者が「はい」と回答し、とても高い満足度がうかがえます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	24	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「屋外活動が多く、体が強くなりました」「戸外活動が多く、いろいろなものに触れたり感じたりできるよう工夫されている」「日ごろから長距離を歩かせてくれ、成長期により体力、脚力、精神面で強くなれていると思うので感謝です」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになってきているか	23	1	0	0
「はい」が95.8%、「どちらともいえない」が4.2%でした。 自由意見には、「季節を感じられたり、子どもたちが考えて取り組めるよう、活動がいろいろ考えられている」「食にまつわることや生活に根ざしたものなど、子どもの好奇心をかきたてるようなイベントを随時開催してくださるので、野菜や植物、動物などさまざまなことに興味を持つようになったのがとてもありがたいです」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	22	1	1	0
「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が4.2%、「いいえ」が4.2%でした。 自由意見には、「食事に野菜や魚がとても多く使われていて、とても工夫されている」「食育にしっかり取り組んでくださるので、あまり好き嫌いなく野菜や魚大好きな子どもに育っています」「給食がおいしい」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	24	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「戸外遊びはかなり積極的で、おかげで体の強い子どもに育っていると思います」「ヤギの世話は特に良いと思う」「自然との触れ合いが多い」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	21	3	0	0
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が12.5%でした。 自由意見には、「いつも快く受け入れていただいています」「快く対応していただけた」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	7	3	1
「はい」が54.2%、「どちらともいえない」が29.2%、「いいえ」が12.5%、「無回答・非該当」が4.2%でした。 自由意見には、「現状はとても満足しています」という声がありました。 その一方で、安全対策について心配する声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	20	4	0	0
「はい」が83.3%、「どちらともいえない」が16.7%でした。 自由意見には、「保護者に配慮されすぎて保育者の負担になっている気がします」という声がありました。 その一方で、「保護者会を平日夜にやっているが、参加しにくいので土曜日の日中か夜にやってほしい」などの意見もありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	19	3	2	0
「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が12.5%、「いいえ」が8.3%でした。 自由意見には、「いつも気遣っていただいています」「なにかあれば時間をとっていただきとても安心できます。感謝しています」などの声がありました。 その一方で、「年々相談しにくくなっている」という意見もありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	21	3	0	0
「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が12.5%でした。 自由意見には、「ふだん使わない場所のほこりが目立ちます」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	19	4	1	0
「はい」が79.2%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が4.2%でした。 自由意見には、「指導が行き届いていると思います」「あいさつはあります」などの声がありました。 その一方で、「先生個々によってかなり差がある」という意見もありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	17	5	1	1
<p>「はい」が70.8%、「どちらともいえない」が20.8%、「いいえ」が4.2%、「無回答・非該当」が4.2%でした。 自由意見には、「とても的確で助かります」「ちょっとした傷や体調変化にも保護者以上に気にかけてくれます」などの声がありました。 その一方で、「子どものけがの理由を先生方が知らないことがある」という意見もありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	16	6	2	0
<p>「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が25.0%、「いいえ」が8.3%でした。 自由意見には、「信頼しています」「トラブルの相手の名前を伝えてもらうことがあり、私はそのほうが良いと思っています」などの声がありました。 また、「その状況にまだなったことがないのでわからない」という意見もありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	21	2	1	0
<p>「はい」が87.5%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が4.2%でした。 自由意見には、「とてもこまやかに見てくれていると思います」「ダメと言わず、子どもの気持ちを理解し、しっかりと言葉で諭してくれる保育士がいる」などの声がありました。 その一方で、「ちゃんと向き合ってくれる先生もいるが、先生により対応が違う」という意見もありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	18	4	2	0
<p>「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が8.3%でした。 自由意見には、「渡し間違いや入れ間違いなどがある」「特にそういう状況がなかったのでわからない」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	22	2	0	0
<p>「はい」が91.7%、「どちらともいえない」が8.3%でした。 自由意見には、「保育目標がしっかりしていて、保護者会で家での取り組み方も伝えてくれるので、園と家庭で一環して教えられる」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	17	2	4	1
<p>「はい」が70.8%、「どちらともいえない」が8.3%、「いいえ」が16.7%、「無回答・非該当」が4.2%でした。 自由意見には、「経営層の先生方に伝えた時は必ず数日以内には対応なり回答をくれている」という声がありました。 その一方で、「要望しても対応不十分と感ずることがある」という意見もありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	16	4	4	0
<p>「はい」が66.7%、「どちらともいえない」が16.7%、「いいえ」が16.7%でした。 自由意見の記述はありませんでした。</p>				

株式会社 学研データサービス
(福祉サービス第三者評価機関)

〒141-0031 東京都品川区西五反田8-1-13
TEL03-5436-8191 FAX03-5487-8810

●評価機関認証

東京都	認証 機構05-149
神奈川県	認証 第9号
横浜市	指定 第9号
横浜市	指定管理者第三者評価機関認定18-09
川崎市	評価手法使用承諾
埼玉県	認証 埼玉2004003
千葉県	千葉県健指指令第2995号-10
群馬県	認証 評推進ぐ機関19-02